

2018 年度明治大学 国際化サポート海外留学奨励金報告書

所 属	商学部 1年
研修名	海外文化・専門集中講座（ペンシルベニア大学 IAS）

報告書

海外に行ったことなかった私は当初、自分の語学力では留学先での学習についていけるのか、留学に行くのであれば日本でもっと語学力を高めてからでも遅くはないのではないかと考えていた。しかし、留学後の現在、早めに行っておいて良かったと考えている。理由は様々な知見が得られ、英語学習へのモチベーションが高まったからだ。

第一に、アメリカ人だからといって完璧な英語をしゃべらないということだ。日本では文法や語法に重点を置いた学習がスタンダードだが、アメリカ人はよく省略しているし、自分の英語も完璧ではないのにも関わらずちゃんと通じることが多かった。私は留学当初、必死に頭の中でしっかりとした文を考えてから発言しようとしていたが、この留学を通して、英語の日常会話やディスカッションなどで相手に意見を伝える時にはより簡潔に、短いフレーズで話すことが大切だと感じた。一方で、発音や語彙力不足を痛感させられる場面も多々あり、今後の学習の課題を見つけることができた。

次に、アメリカという国の多様性について感じる事ができた。日本国籍を持っている人はほとんどアジア人だが、アメリカでは白人、黒人、ヒスパニック、アジア人など非常に多くの人種が混在している。様々な国や地方から来た人々が街を作り、レストランや伝統工芸品があり、にもかかわらず皆英語という共通言語を使いコミュニケーションをとっているという日本では考えられない、事前の知識では知らなかった様々な側面を感じる事ができた。アメリカに来て同じアジア系の人々と話したりアジアの料理を食べることでシンパシーを感じ、初めて私は自分がアジア人だという自覚を持った。前述のレストランに行くなど現地ではなにより食費がかさんだが、奨励金の受給により大幅に負担が軽減された。

最後に、アメリカ人だけではなく他国からの留学生、そして多くの日本人と知り合えたことである。プログラムに参加したのは殆ど中国人で、最初は日本人に比べて積極性の高い彼らに苦手意識を持っていたが、ディスカッションや野外調査などを通じてお互いの文化を理解し、良い関係を築くことが出来た。歴史や政治など、自分の興味のある分野についても積極的に意見交換ができたのは非常にためになった。また、本校の学生はじめ他大学の学生、長期滞在している日本人からも様々な知識を得ることが出来た。特に長期滞在している学生の話聞くことで、長期の留学へのモチベーションが高まった。余談だが、普段留学生が行かない工科系のキャンパスや様々な専攻の事務室や教室を覗くことは非常に刺激的で、同様にモチベーションが上がった。

以上の理由から、私は今回の留学を非常に実りあるものにできたと考えている。もし私のように留学に興味があるが決めきれない学生が本文に目を通していただければ、ぜひ前向きに検討してくれることを願うばかりである。

写真貼付（1枚）

研修を受けた *Williams Hall* 近くの大通り。昼にはフードトラックが多数出店しており、安価でボリュームのある料理を食べることができる。

